と云る角力取行る○十月より始り大川筋を新川に御普請中に付見地取掛せしを翌年ふいうの元の水面となる○十二月廿日夕より夜へかけて再甘露降○深川寺町法華院不動堂流れ出し新堂の前なり

○牟礼杉代町本願次郎代地深川元町戸田家女正殿居屋敷の地をとみつる○祈佛の開帳年ふ盛ふ〳〵数ふ知り〳〵ど寛政より享和迄の写番〳〵誌せる和せるを以尚穿鑿を次編に詳ふすべし

寛政二年庚戌

正月廿一日牟礼杉代町より出火砂村百姓屋迄焼る○三月九日西人劉安生卒　号雲山海市　曹溪宗に属す○二月十日下谷稲荷社祭礼産子町〳〵より出し遠物出る牟礼の時に義子の法度より出板絵の警示を出すこと旧例に依て後中絶せり○永代寺より京都大佛の内弁才天開帳の時る焼肉見せ物不壬生狂言出世に行れて面白き故とし封市前の非軍も酒宴の興ふられを学つる○神奈川浦伝る初世青河戸ふく開帳

○八月十四日柏野栄川院典信卒　年一才　○八月廿三日前句付点者川柳卒　浅草新堀誌に曰る不義に川柳八同寺門前の協正ふして柄井八右衛門と号し教導を掌ふ今ふ千流さえ公の俳諧の一番組専川柳五世に及ひ柳樽の后軒年ふ柳樽を号し集成柳樽と号し教導を掌ふ今ふ千流さえ公の俳諧の句集あり世〳〵俗情を述る川柳もられとし愛せ〳〵りのとみん

○九月六日儒師山中天水卒　浅草行安寺ふ葬る　○十一月廿七日夜大地震　宜湾王子

○十一月琉球人来聘　正使宜湾王子　前年の冬王子を立て冊封の為に出せる我国の富士の根なりとある故富士の国蜀山武江の雑事の問答の書あり

○十二月二日夜甘露降　○潮田岡答成　天明よりこの方俗名貞雄を田蜀山

○琉球漂刊行　表為中良著　又朝鮮漂も刊行せり　○磯器焼絶滅始る

同　三年辛亥

○正月十五日儒師平沢旭山卒　年九十九才名先憲称五郎　深川法禅寺ふ葬る　○三月十五日より五十日の間儀芝寺勅世寺開帳　○市井の法令を改る也　物間の費用を減し積今始る

聖年六月新橋柳原向へ町会所兵粮蒔を創建あり是米價貴踊いまだ
或いは不時の災変の物議民を救ふんがための　河仁寺あり○京師の学者増
庵が弟子中沢道二（京西陣の産医居住　寛政九年没）江戸に来りて芽吹町なる医師前田一貫が
宅にて講学を講じるが門人駿府集りて友神田相生町向の片町に参
前舎を建て講筵の席とし道二翁と称する書数篇梓に綴て世に行
る（参前舎は今の相模屋なり）○五月十五日夜九ツ時分大雨雷交る○隅川御殿の後
塩濱松平豆州侯御下邸と成る○六月加茂縣主季雪伯為使者の社
前に碑を立る（始め京都の学者勅諚の事を述べて次に云元禄七年川上四郎右衛門大坂陣伊丹
城主より公儀へ訴きたり賣買の高人を十組に分ち之を従来の
船頭に定めて洋中の海運を専に禁じ他船のまがりなりに
せんと正保の比氏子ともに社を建て祭れること云々）
樫木の以後絶えしうらうらいさを結ばれ
○醫学教日講始る○堺町河岸の船町駿るを見せ物とし（高さ六尺ばかりの人形を
会ひ又堺炭の火を起

しるせる合図）○八月六日大風雨小田原辺より江戸近海辺に潮上る○町火消纏張箱を
改白漆塗とする○八月廿日蕃書より雲出海昇り蕃書より大風雨時七時止む
○八月廿七日大雨時夜中より大雨南風烈しく八月より強し已刻に漲深川
○九月四日大嵐時夜中より大雨南風烈しく八月より強し已刻に漲深川
海嘯（潮）にて諸所に入船町久右衛門町弐丁目と唱へ吉祥寺
門前あふ建つらる町家住居の人数と共に一時に海に流出て行方を知らず
弁才天社損じ拝殿別当所に外流失せし外諸方家屋吹損し川に溢る書時に引く潮
つぶれ民家流失せし外諸方家屋吹損し川に溢る書時に引く潮
亦筋に沿て諸水あふる（諸ふ云蟹陸に遠上る深潮の北之と比時既に高くなり）海嘯の地を居る浪の変
計りがたし西の船町限東の吉祥寺門前より亀戸迄凡長弐百八十五間の
家居を取られ畠地まで（此内西のかた入船町辺は
海辺氏基に裁付候とかや）○九月十三日能人実秋座

白雄卒　五十二才品川海晏寺に葬る　○九月廿七日儒師松田拙齋卒　名長恭麻布天徳寺に葬る

○神田明神祭礼尚年々沖雇あるべし一番組と成る　年番に勤む一年ごとに一組ツヽ出るなり　後年隔年に超えて番の踊練物を出す　○十二月九日田向院へ　命せられ永代ちゆおいく流傷流死の者施餓鬼修行あり　○十二月十四日十五日神田社年の市始る　浅草市に倣ふ物名なとて　後年廿日廿一日に改む　○十二月□日下谷火事　○深川洲崎名物の蛍そばは九月に改め後絶えぬ

寛政四年壬子　二月閏

二月初午の日芝日比谷稲荷祭礼麻布の子町こより出し練物を出す　○二月七日麹町火事　○壬二月六日詩人安達文仲卒　名儀号清治三の郎　芝に住る人に葬る　○四月のはじめ米價騰貴　○五月十四日新井白蛾卒　名守孝称孫右衛門　易学に名あり　○護國寺に新文三十四番　番外に外に　○六月十日山王御系礼附系二組と成る　神田に同じ　○六月餅鳥孫安側へ町会所救米を建る是迄の大的場なり

○六月十八日亥刻光物西南より東北へ飛大さ笠のごとし　○七月廿一日飛戸梅孫安の梅舊根焼失せるよし　江戸砂子に書入といふ説あり

○七月廿一日南大風巳上刻麻布并堀より出火紙屋谷赤坂青山比谷合羽遠麹町番町飯田町小石川御門小川町三橋稲荷の社辺迄焼亡　此後番町麹町の裏に火除地出来る　此時迄番町に天正年中の家僕も住とぞ　○牛込神楽坂通西側へ山下仁の某屋敷あり空隙へ極木孫石孫まで生しゲ此時麹町の善國寺と肥田仁の某の邸に移れり後又此孫安町家に改まり　○八月十二日画人松林山人卒　大川えこの家に移る　○西本願寺御堂再建　紀州和歌山樵中より寄進　名老三十二人六十八人手別の名を拾来り代々に拾ひ建る称しき建方こといつ所堂間口十八間奥行廿五間　○谷中感應寺　今天王寺　五重塔は和九年二月廿九日焼亡成今年再建あり　○十一月七日儒師千葉芸閣卒　名言之称茂右衛門　千葉未緒孫に葬る　○十二月八日深井俊師猪川春章卒　浅草西福寺に葬る号旭朗井能優肖像を画く自上手多門人妻好妻妾妻山妻徒妻林妻淑妻玉妻厳教あり

○十二月十八日下総八幡八幡宮社内欅の古樹を掘穿るに古鏡を得たり方三尺深さ二尺二寸元亨元年四十二月十七日別当和田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若宮ち古年火除の為地を石上られ神楽坂に代地を賜りけるが今年二月普請成就して廿七日開沙門天遷座あり○二月浅草寺奥山にふるくび樗数株を裁る○三月六日より茅場町某師境内元房州鏡が浦西行寺西行法師像開帳○榊場神明宮内天満宮開帳○五月より九月廿七日江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木吳江卒号を水丸山長寿寺に葬る○九月先達て魯西亞漂流して帰朝せし伊勢白子の船頭幸太夫磯吉江戸へ来る天明二年十二月豫州神通丸難風に逢ひ漂流せしといふ磯吉は今年廿八才なりしが内約の板程なく死しかり幸太夫は今年四十二才仮田町の御某国に有りて後名を保てりと聞○十月廿五日湯島松平雲州侯別館より出火神田色町石町堺町

葺屋町芝居日本橋辺迄類焼す○十二月御茶屋下町孤の内須田町二丁目小柳町平永町に北例を取掛り外神田に代地を賜り明地中成後に救蔵を建らる町奉所救義の○月日不知儒師原敬仲卒名恭亂雙桂の二男なり又雙桂名は諭号尚庵明和四年九月廿日卒行年七十に泉寺に葬る遺骸なり弱迄吉祥寺中

同　六年甲寅　十一月国

正月十日未中刻麹町五丁目秋田孤伝兵衛の家より出火烈風にて山王御社永田馬場霞が関虎御門外榊田辺法度藩邸牧宇教焼幸橋御門焼失宿下日蓮町新橋芝新堀産仙墓今洋家に一円焼亡せり○正月廿日仏人金羅卒宮博士に学ぶ○二月廿八日儒師吉田子方卒根岸に葬る○三月幸橋御門外兼房町和泉町船治町備前町伏見町若右居性に葬る○三月廿六日元柴房州鏡が浦西行寺西行法師像開帳○榊場神明宮内天満宮開帳○五月より九月廿七日江戸霖雨大川出水○九月先達て魯西亞漂流して帰朝せし伊勢白子の船頭幸太夫磯吉江戸へ来る天明二年十二月豫州神通丸難風に逢ひ漂流せしといふ磯吉は今年廿八才なりしが内約の板程なく死しかり幸太夫は今年四十二才仮田町の御某国に有りて後名を保てりと聞○十月廿五日湯島松平雲州侯別館より出火神田色町石町堺町

尚時の所を以武家地なるを在りしを外へ移されて此所へ代地をあらる
○川口善光寺如来開帳　来清翠集しに川口の渡り船覆り溺死人多かりしと
○四月二日亥半刻吉原江戸町弐丁目より出火一廓焼亡　仮宅田町聖天町山の手元町迄焼る
○四月十七日青山梅窓院主蕃山和尚寂　詩及ひ書を能くす　○四月廿七日儒師荻野不徳卒　名義直九山不徳と称す　○六月十日儒師衛藤里卒　俗称弥四郎と称す　○八月十九日國学者林諸鳥卒　称和助号梅居士情隨院の墓に男七郎と称とふ文化年卒に　○秋年所々の樹溝口内匠製造まて樹枝を切る　文化は為りてえの如く樹枝を切る　○十月晦日奇人伊藤松軒卒　号倚松庵青山梅窓院の墓に　○十一月三日子刻大地震　○十一月四日象刻蔵六居士卒　京新吉山にあり墓に　○十二月廿九日将軍永徳寺信卒　幸家深川浄心寺の墓に　○江戸地荒増巡行所を定む　生駒不動堂の墓の碑あり　○四神地名録写本成　古松軒黄檗山人編輯　を郎の名を記す
○出羽国より大童山文吉郎出十一才肥満して廿二貫目あり角力を取り年

長じて弱くなれり　○當道大記録成　写本一冊　一ツ目弁天社後深川添新墓

寛政七年乙卯

正月九日谷風梶之助終　号千代才仙台藩に墓に記あり　見負あり角力元あり
より出火数焼多し　○二月十三日書家細井竹岡卒　名庸称次郎左衛門八十才あり　俗称名恵也の墓に
○三月十八日より六十日浅草観音開帳　風雷神門再建成る　三月十日二荒
之安置に　○六月七日儒師清水江東卒　卒年六十八谷の商家大坂屋とりの人之墓迷もあり　○六月十五日
夜大雷廿六字不一落ると云　○七月八日儒師市川雀鳴卒　名匡称安門卒年六十六西遊先師也の墓に
○七月十三日星月を貫く　○八月七日梅柳軒重明卒　称俊国永と号す上州松井田の産家の浪人
師の門人なり七十三谷中天王寺中に墓あり　○八月十五日深川八幡宮名物粢屋子町くちり
出し練物出る　○九月十日儒師三浦瓶山卒　名衛良称左兵衛谷中の人徳寺の墓に男を吳山とい
○秋西国米穀價登揚に　○九月廿一日青山久保町熊野権現奈礼産子

町々より出し絲物を出せ○十月十二日太田大洲卒七十才名浩元本所大法寺に葬る

寛政八年丙辰

○六月白牛酪奏弘の事を命じ給へ享保中唐州嶺岡に白牛を放養せられて白牛酪製法を命せらるゝに依て僅に三頭ありしが此時代に至て七年餘に殖ふいくゝ依て投斛の乾酪を製せしめて弱く世人を救ひ給ふ 沖恩澤あるべき記なり 宝政主子五月桃井源寛白牛酪考一卷を撰し献ずる

○二月谷中感應寺現沙門天開帳○夏失口新田明神開帳○芝泉岳寺釈迦八相曼荼羅開帳義士の遺物を見せしむ○四月十二日狂哥師東陽菴光章称岸宇喜門弱迦陽泰寺に葬る○六月九日名越明神奈礼神輿を渡し給ふ○十月十五日書家澤田東江卒六十才保鱗一号玉函山人称又二郎この人東江新に葬る○九月卒所に古刹を立て建つ○十月四日孤汗軒潔名貞雄号卒八十一才古実者なり又江戸地理の出編集も多し世に行はる葬る

副使安村親方柴野彦輔琉球人名護親方茅侍従答あり○十一月琉球人来聘 正使大宜見王子

○十二月六日儒師黒沢雄岡卒名萬新 称右仲 八十四才

同九年丁巳

七月宜

二月廿八日牧野洞春卒名英信上総守 浅草院に葬る○春三国魚藍観世音一座開○松浦侯の為年才天開帳江戸より諸人多し○四月廿七日画人三輪花信斎卒名在業 猿を家に養ふ事多し猿の事を画き○猿江泉養寺庭中の蓮花頗多し今八見えず 四谷勝専寺に葬る○猿江泉養寺庭中の蓮花牡丹花葉を背て咲くこと鶴鶴集せり○六月三日犯罪師長沢若の嫌疑者の庫丸卒 紫藤宝三郎と云絵を紙に 山谷正法寺に葬る○橘の異品を奏ぶ事流行 橘品 長橘 長橘考に 系を棒にす

○七月六日大雷所々に落る○七月十日中村佛庵景連 中村氏 が家 書に若くす

そ社子宗錫を伴ひ滅亡する新世音(清しの)紀中大川の辺ふいくゝ洪水国に天満宮の木像を切て京和元年深川法禅寺に安置す 延天満宮 ○七月廿日古実者真野是義卒名安通 称七郎 七十才 麹町に住する葬る○十月町人消人豆の内始て二百七十四人の頭取を命せらる○十月廿二日義堂家陸奥邸向佐久間町のまいみや

より出火某所堀の辺より大川を越深川宮源八名川町へ飛海辺彩田木場迄焼亡○十一月廿二日武器古実装束香山卒 名長俊様一家爵天皇の中了院ちの義に
○十二月十八日醫師宇田川玄随卒 名晋号槐園桂彩の中 妻院の義男を玄真と云 ○十二月廿一日俳人妍高津富卒 年七十八今戸 茂世の業 ○東海道名所圖會六冊梓行 梅里雅亭著 名家合画
○和蘭年契一巻梓行 桂州の人高紹著文中小本二冊あり又寛政十一年桂州の人ふて惠光子編和漢年代聯要一巻を梓行す

寛政十年戊午

改暦頒行 寛政暦と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふ五十日魯彩 茂世堂と号七十二才
○四月金彫工六森英秀卒 号清英 ○五月朔日石川泊より鰊
上る長九尺巾三尺余餘あり 武江何某のもの宅号あり宮福如来なる小圓幅あり 形焼内山の上ふ乳竜を以て大佛の像を造り相油
遣ふ日光より海上より ○六月廿六日医師人見孝良卒 本所本法寺の中 妙院ふ義也
○六月廿三日画人梅里山人卒 名国洲画師あり 中の名成彩なる ふ義に ○七月より深川新大橋

の向ふ物義を建らる此所の所家半迎者所の辺ふく代地をりしあり
今の半迎岩戸所之○九月一日儒師吉田篁墩卒 年八十 名甲大猷なる ふ義に
○九月十一日特野永貫泰信卒 ○十月廿八日茶人宇孤宗孤卒 号敬月菴 西の孤ふ義に
○十月廿九日初夜なる比より星ふく飛んく夜半ふなりて天空の気
色一面ふ雲の張るう如く見え〳〵 ○十一月三日彗星の飛ふるもの如〳〵
○儒師岳麻谷卒 名之浩稱名帝崇義 七十二才 月日不詳 ○十二月十二日狂哥師朱樂菅江卒 六十一才 秋山橋
今女平迎三千緒所ふ住青山青屋ふ義に 妻ふ義に
辞世 執筆の名や婆婆ふ縁るん吉野の桜文科の月

同 十一年 己未

正月廿九日二所所芝戸辺より出火神田辺町孤焼亡此時後藤倉河岸
町孤也十間通り繰ひげふ成る同ふ河岸後還廣ゑる ○二月十五日三圍稲
荷開帳 奉納造り物ふ日本橋白木孤より天竺織ふて法ふ牛迄本貫の木偶を
収む開帳の所物ふ所をつく以の始ふり来情事集まる ふ おびたゝ

○聖堂御再建境内廣ゝて大度落成○湯島聖堂図書山僧論解　青山久保町に移る湯殿ありし亀有町糀町に代地なりしも此時なり

○三月役行者千百年忌勅して神農大井の号を賜る○霊岸島埋立地ハ眺寺地に産物金訴建□止む　○夏寺院村法泉寺鬱蒼ハ勅を開帳

○六月四日より谷原村縮間の辺長命寺彩色所山門讃州の稲人の面ハ彫刻

見物多し○七月六日夜大雷雨刻々大雷雨○六月十九日僧師佐久間

文示卒名維章号丸窓ハ俳諧ハ○八月青山海蔵寺檀家和泉孫左衛門家

ハ一位五尼なり刑罪の首級六百を落く書寺ハ養供養の塚を建る

○十一月十九日夜巳ッ時より大雨大雷数刻ハ雨に成る

寛政十二年庚申　閏月閏

六月廿六日夜谷中いろは茶屋より出火近辺寺院多く焼る

○二月廿三日麦寺新田圓龍泉寺町より出火吉原京町飛廊中焼亡仮宅田町

聖天町山之宿丸町鈔名越山谷町横山町○七月朔日より護国寺ハ開帳

○四月廿九日開基寧卒六才称深義男恭の養子○閏四月七日俳人山門

花縣卒六十五才真秋と号小日向称名寺ハ称名義○五月十一日官儒服部栗邨卒五十五才名保命

○銀座常是銀座町より蛎殻町に移る○九月十日唄うたい湖出市十郎

死谷中妙福寺ハ○十月六日金雕工菊岡氏祖光行卒○閏廿日書家俗名東川

卒名茂之卒不法恩寺ハ○十二月廿七日書家稲葉華溪卒五十才浅草西福寺ハ

写卒大橋分長著

著毎ハ邦教追考ハ成写本一巻山東庵作○浮世絵類考成写本一巻

源世絵ハ大隅又兵衛英一蝶宮川長春吏我始祖ハ江戸ハ名人多し又天明寛政の比ハ

剛人刷人の上手出て巧を尽し次第ハ英雄の抜出来て方初の外一とおれり然ハ江戸ハ

ものも江戸ハ及ハ

此年間記事

毎月晦日上野寺大師遷座の時系諸摩集に寛政の比より始まり
此時代名家△儒家・山本北山・亀田鵬齋・細井平洲・服部栗斎・柴野栗山・
古賀精里・新井白蛾易術ホ・△画家・高岩若谷文晁・董九如・長谷川雪嶺
鈴木芙蓉・森蒙斎△狂哥師・唐衣橘洲・尚左堂俊満・又浮世絵・狂哥堂
真顔・六樹園阪盛・蜀山人・芍薬亭長根△浮世繪師・多文齋栄之
勝川春好・同春英九徳丹・東洲斎写楽・葛飾北斎狂哥の招牌の漢字ホ・多く画く所なり・爵義
政演京傳・同政美・蔦屋重三郎・窟俊満・尚左堂と号・狂哥師なり・葛飾北斎
妓豊艶・栄松斎長喜・栄徳・栄徳・丹春童・田中益信・古川三蝶・悦等・
金長・もべく狂哥或名弘の招牌ホ刷人刷工の巧をつくし花鳥を極る事代
時代より盛なり○曳尾庵の我衣ホ栄学医の始祖と云ふ中川須菴志保ら
ア〜かど果さべ生後奥平侯の侍医前野良澤号蘭化ホ〜ひ〜事なり生門

人杉田元伯・宇田川玄随・桂川甫周・大槻玄澤ホ〜なり大ホ若ホ〜〜
此道ふれりとなり○浅草ち随分門前の茶店鶯妓屋のおきた某姫川高
島のおひさ芝神明前の菓子屋のおたんこの三人美女の誉えあり蹴鞠をいと
もべ仕居ホ慧ホ人引もきべ○吉原廓屋の名妓花扇花菖ホ誉ホの誉えなり来朝
の清人費晴湖湖陽ホありてこの孝嬢妓が事を学られ之賛しる詩あり
曲亭の烹雑の記ホ載なり○婦女のかぶさしふてびを乗り始む延享中始りし
○堆朱漆衣桁なる○鞠画の裁き行る○いつの比より始りしら西ガ系
ホ湯島の社丹屋太右衛ホつぐ別荘ありて花壇ホ白の牡丹英七ゆ〜そふ
盛の比貴綾羅集せり文化の始ホ○酒楼ハ於く書画會を催ふり世比
始る近比の名家古画佐ホ書画舎ハ寛政の比藤金の○児亜ま院ふ切り組燈
偽書潔さいふりのようなり始りしよりいつ
義倫ハ上方ゆりの物ハ夫故始ハ系の生洲大坂の乙酒祭の図板を重板せり

寛政享和の比蕎麦政美をなす画き又北斎も續ひて画り文化ふいより
奇川國芳豊久氏伎ふ工風をこらし数多く画き出せり至棒今よりなく
年々板行せり○人物名戦山水を修業者多くは四角よ画くの戦を行なる
書翰角を彩色摺ゆへ南ふる寛政の志より始る○寛政十一年の春より王子村料理孫海老や扇屋又
世ふきあり○美双紙の事寛延宝暦の比なをなく古の合戦武功の次第或敵討実の事をつゝ童児の
戯院多りて此和安永の比より世上風俗の敝悪男女の情慾をのゝる編輯多く此等を命
又ふ世ふ行れ幼稚のもの迄人人事ら色を弄び功拙を論し清日の清と為ふ至る寛政より二度々出東表
色を一変せしめ勸懲を旨として多く他ふ出り人の内善悪ふのさゝ〻殊ふ行れり

享和元年辛酉　二月五日改元

正月十四日俳人椎茶菴卒山梅人卒大久保泉弧る不詳○正月十八日画人小山寒巖
卒名孟思　楊洲法流ふ系ふ○二月二日茶人千柄菊旦卒西河寿所の坊ふ住り　深川法禅寺中南総院ふ葬
流剣術師中西忠太卒根岸若性る不詳　其墓碑文ふ記せり○三月十八日より十五日の夜浅
草る親世音開帳○亀戸天満宮開帳○同寺不動尊開帳○同月より

深川法禅寺ふて武州熊谷る弥陀如来蓮生像ふ開帳○五月四日大雷雨
三度る○五月十七日官医多紀永寿院元徳卒七十才名元惠号薑渓　牛塚城宮る小墓ふ
○六月十二日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲り長五尺一寸横二尺
厚四寸ふり僅ふ三寸餘巨に微月ふて鯉身色栗のごとく鱗ふ斑あり
○六月十四日より田向院ふて浅草清源る新迦如来開帳○六月廿九日儒
師細井平洲卒七十四才名徳民号如泉称善之亭　浅草る所天蓋院ふ葬ふ○九月十八日画人蘭洲森文祥
卒小越の人浅草本願る中ふ住る小墓ふ　男を蘭曉文良と云医師ふり○九月十八日金雕山岩本昆寛卒八十八才　称善之亭
○紫義緑五十巻板行学問所御板行○十月十九日夜元飯田町焼亡
○十一月廿五日夜神田蝋燭町より出火十四町焼焼す

同　二年壬戌

二月廿五日麦神九百年所忌○鞆町卒ふ天満宮開帳○二月廿八日より柏木